

営農情報（小麦）

～黄斑病・赤かび病防除と今後の管理～

令和7年3月21日
福岡大城農業協同組合
南筑後・久留米普及指導センター

播種時期による生育差が大きくなっているため、出穂時期も異なってくる可能性があります。出穂期は、赤かび病防除時期や穂揃期追肥の時期を決める大事な目安です。それぞれのほ場での状況をしっかり確認して、適期管理に努めましょう。また、3月中旬以降の気温上昇と周期的な降雨により、福岡県内でも黄斑病が発生し始めました。前年作麦で多発生したほ場では、必ず発生状況を確認してください。

今後の降雨は麦の収量・品質に大きく影響します。枕地や排水溝を整備し、ほ場内に滞水しないよう排水対策を徹底しましょう。

1 黄斑病対策

黄斑病防除は出穂2週間前～出穂1日前まで!!

コムギ黄斑病はR6年産小麦で多発生し、収量・品質低下の要因となりました。JA 福岡大城管内のコムギほ場でも黄斑病の発生が確認され始めました。前年作麦で多発生したほ場、特に大豆あとでは発生する可能性が高いため、ほ場での発生状況を必ず確認してください。特に、ちくしW2号では多発生しやすいため注意が必要です。

病斑の発生が、下葉のみに留まらず、上位葉へと拡大している場合は、3月中の出穂前までの間にチルト乳剤25で防除します。



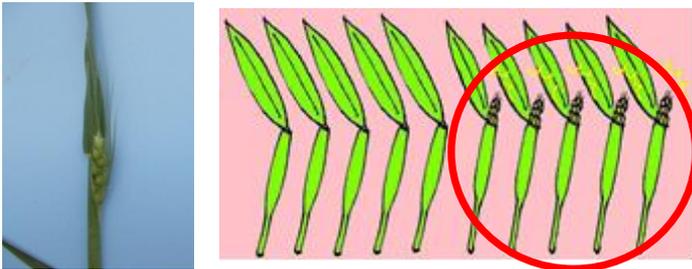
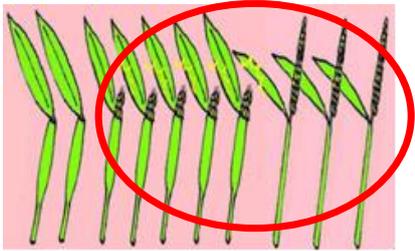
2 赤かび病防除

「赤かび病」は麦の収量・品質に大きく影響するだけでなく、赤かび病菌が産出するカビ毒（デオキシニバレノール等）は重大な健康被害を引き起こす要因となります。確実に防除を実施し、赤かび病の発生を防ぎましょう!!

品種	予想出穂期	11月20日播種小麦の防除時期（目安）	
		1回目（開花最盛期） 出穂7～10日後	2回目 1回目の5～7日後
シロガネコムギ	4月上旬ごろ	4月中旬ごろ	—
ちくしW2号			4月中下旬ごろ

※防除時期は、11月20日に播種した場合の予想出穂期を基にした目安です。今後の気温の経過で出穂状況は変動するため、ほ場の出穂状況の確認を必ず行います。

※ちくしW2号は赤かび病にやや弱いので、2回目の防除も確実に行います。シロガネコムギであっても、開花期に雨が多い場合は、2回目の防除を行ってください。

出穂期	穂揃期
<p>全茎数の40～50%が出穂した日 ※止葉の葉鞘から穂の先端が現れたら出穂 (「ぼう」は含まない)</p>  <p>出穂 穂の先端が出ている茎が全体の5割</p>	<p>全茎数の80%以上が出穂した日</p>  <p>茎の全体の8割が出穂</p>

【赤かび病防除薬剤】

体系	農薬名	希釈倍率	10a 当たり 散布量	使用回数	収穫前日数
液剤	ミラビスフロアブル	2000 倍	100L	2 回以内	7 日前まで
	トップジン M 水和剤	1000 倍	100L	出穂期以降 2 回以内	14 日前まで
粉剤	トップジン M 粉剤 DL	-	4 kg		

3 穂揃期追肥 (ちくしW2号)

ちくしW2号は、子実タンパク質含有率(目標値 12.0%)を確保するため、穂揃期追肥の実施が必須です。生産者ごとのばらつきをなくし、一丸となってJA福岡大城の小麦品質を向上させるため、確実に実施してください。

	1回目	2回目
<p>尿素 赤かび病防除 と同時実施</p>	<p>開花期(出穂7～10日後) 4kg/水 100L/10a</p>	<p>1回目の5～7日後 4kg/水 100L/10a</p>
<p>硫安</p>	<p>穂揃期～その7日後 (出穂 10 日後) 20kg/10a</p>	<p>—</p>

※追肥を行った時期が1月上旬のほ場や葉色が淡いほ場、雑草が多発生しているほ場の場合、尿素を5kg/10aに、硫安を25kg/10aに増やします。

4 排水対策

畝溝と枕の横溝の交差部分の溝をさらえ、排水口との連結を行い、雨水がほ場外へ確実に流れ出るようにしましょう。

【農薬の安全使用上の注意】

- ① 散布前に必ず農薬ラベルの登録内容等を確認！
- ② 散布時には近隣作物や住宅街への飛散防止対策を徹底！
- ③ 散布後は必ず散布器具(タンク、ホース等)を洗浄！
- ④ 防除履歴の正確な記帳！